

フェリス女学院大学の留学生日本語教育

— OPI を通しての一考察 —

吹 原 豊

1. はじめに

フェリス女学院大学では2002年に留学生センターが設置され、専任教員による留学生を対象とした日本語教育が開始された。その当時の留学生を対象とした日本語関連の授業は、1988年に文学部国際文化学科の設置に伴って開講された基礎教養科目の「日本事情」と1992年に開講された語学科目の「基礎日本語」であった（伊藤2004）。その後、2003年度から2005年度にかけて必修単位数や時間数に何度かの変更が加えられた。そして、4年間で12単位必修となり、「基礎日本語」も「留学生日本語」に改称されて現在に至っている。

河先（2007）によれば、日本語科目の必修単位数は日本語担当教員の要請により決定されるのではなく、大学側によってトップダウン的に決定されたため、コース全体の目標を設定し、それに基づいたシラバスを作成して実施し、評価するという通常のコースデザインの手続きを踏むことが困難であった。しかし、2005年度以降に必修単位数が安定したため、留学生教育全体の理念や目的を設定し、それに基づいてカリキュラムや各授業のシラバスを決定して実施するという状況が整ってきたという。

筆者の留学生センター着任は2006年度である。それ以降、日本語教育を行いながら留学生の日本語の口頭能力を後述する OPI によって評価し、評価に際して録音した談話データをきわめて小規模ではあるが言語コーパス化^(注1)しようとする試みを継続中である。本稿ではそれらの試みから見てきた留学生の日本語能力（proficiency）^(注2)の傾向と推移を留学生日本語教育の取り組みと関連付けて考察することを目的とする。

なお、フェリス女学院大学で学ぶ留学生には留学生入試を経て入学後4年間在籍する私費留学生^(注3)と海外の協定校から原則1年間受け入れる交換留学生とが

ある。本稿では、フェリス女学院大学での学位取得を目指す私費留学生対象の日本語教育のみを考察の対象とする。

2. フェリス女学院大学における留学生日本語教育の概要

2.1 留学生日本語教育を支える考え方

河先 (2007) の中でも述べられているが、フェリス女学院大学における留学生日本語教育を支える2つの考え方として、「内容重視の日本語教育」および「アカデミック・ジャパニーズ」がある。

内容重視の日本語教育では言語形式ではなく言語によって扱われる「内容」が優先され、それを実現させるための言語的手当として言語項目が提示される。この優先し重視される「内容」は、言語の必要性（例えば文型や語彙の基本・派生や難易など）からではなく、学び手側のニーズによって規定される（岡崎2002）。内容重視の日本語教育は近年留学生日本語教育や年少者日本語教育に盛んに取り入れられるようになっており、フェリス女学院大学でも留学生日本語のカリキュラム・シラバスの作成にあたって、内容重視の立場から、学習者の特徴や日本語の必要性を踏まえた上で、学習者に必要とされる「内容」を決定し、そのために必要な言語項目を考えるとという手続きが取られている。

一方のアカデミック・ジャパニーズは、2002年度からそれまで外国人の日本の大学への留学試験に使われていた「日本語能力試験」と「私費外国人留学生統一試験」を統合させた形で「日本留学試験」が実施され始め、そこから謳われるようになったものである。日本留学試験では「日本語」の試験の導入目的として「日本の大学などでの勉学に対応できる日本語力」というものがあり、そこから発生した概念であるといえる。「大学での勉学に必要な力」についてはさまざまな見解があるが、具体的には(1)講義を聞き取り理解する力、(2)大量のテキスト、資料、参考文献の読解力、(3)レポート・論文、発表のための情報収集力、(4)レポート・論文を書く力、発表をする力、(5)学内でのコミュニケーション、人間関係を作る会話力などが含まれる。留学生と日本人学生に対するアカデミック・ジャパニーズ教育の必要性を提唱する堀井 (2003) は「アカデミック能力＝基礎知識＋問題発見解決能力＋スキル」と考え、知識とスキルを使いながら、問題発見解決の流

れの中で学んでいくという枠組みから出発することによって、学び（授業）の質も高まり、教育現場からアイデンティティや生きる力につながる、実にさまざまな可能性が出てくると述べている。従来、日本語教育の中では問題発見能力の育成はあまり注目されてこなかったが、これからはいかに問題を発見し、その問題を考え、批判的に物事をとらえていくか、そして、いかに自分が考えたことを伝えていくかを念頭においてそのためのトレーニングを授業の中に取り込んでいくことが必要になるというのである。

前出の河先（2007）でも述べられているように、アカデミック・ジャパニーズは日本で大学生活を営むために留学生に求められる能力は何かというところから出発して、その能力の獲得のための支援の一環として言葉を捉えているという点で、前出の内容重視の日本語教育の考え方と矛盾するものではなく、フェリス女学院大学の留学生日本語教育もこれら2つの考え方によって支えられているわけである。

2.2 フェリス女学院大学の留学生と留学生日本語コースについて

フェリス女学院大学の私費留学生は従来からその大半が中国および韓国出身者であり、2002年度以降も表1に見られるように中国と韓国に加え台湾からの留学生がごく少数存在するといった状況である。^(注4)

表1 2002年度以降の学部新入留学生の国籍・出身一覧

(数字は人)

	中国	韓国	その他	計
2002年度	3	5 (うち3年次編入1)	台湾 1	9
2003年度	14 (うち3年次編入1)	2 (うち3年次編入1)	0	16
2004年度	13	1	0	14
2005年度	11 (うち2年次編入1)	3	0	14
2006年度	1	5 (うち3年次編入2)	0	6
2007年度	2 (うち2年次編入1)	1	0	3
2008年度	2	3 (うち3年次編入1)	0	5
2009年度	3	5	フィンランド 1	9

前述のように、私費留学生は入学試験を通過しているため、いちおう一定の日本語力があるとみなされるが、2006年度以前にはその力にかなりの差が見られ

ていた。一般に私費留学生は来日後1年から2年程度日本語学校に通った後に大学に入学する場合が多い。しかし、そこで行われる日本語教育には学習者の持つ個人的な要因を中心にして、教育機関の個別の事情により一定の差が生じる。しかも、2002年に日本留学試験が導入される以前は、送り出し側の（日本語学校などの）予備教育機関と、受け入れ側の大学との間に前述のアカデミック・ジャパニーズという共通の拠り所がなく、予備教育との連携の手がかりも見つけにくい状況であった。その上、フェリス女学院大学では新入留学生の入試に日本留学試験を導入したのが2006年度入試からであったため、それ以前には私費留学生の中でも相当な日本語力の混在があったものと考えられる。日本留学試験の導入後には日本語科目において全受験者の平均点以上の得点が求められるようになったこともあり、新入留学生の日本語力にも一定の水準が担保されるようになってきた。そうした状況も踏まえて、2010年度からは学部入学後の日本語科目の必修単位数が現行の12単位から10単位に減ることになっている。

堀井（2005）は、留学生は学部入学前にアカデミック・ジャパニーズ（以下AJとする）前半能力を持っている必要があるとしている。そして、AJ前半能力を具体的に、(1)講義を「ある程度」理解できる聴解力、聴読解力、(2)文献が「ある程度」読める読解力、また、教員や職員、そして日本人学生とのインターアクションができる程度の日本語会話力であるとしている。そうすれば、その後の大学の「日本語の授業」で補いながら、大学の授業に何とかスムーズに入っていくことができるようになるからである。また、それに加えて、「受け入れる学部はどのような留学生を望んでいるか」について、「日本語力、基本的知識の豊かさ、思考力、勉学の努力」を挙げ、予備教育への期待として「生活上のコミュニケーション能力、日本の社会についての一般的知識と理解、話し言葉形式と書き言葉形式についての十分な知識、中級レベルまでのしっかりとした文法能力（特に構文力）、講義を聴くことに特化した聴解教育などの講義や授業内容理解につながるスキル」についてその必要性を指摘している。その上で、「留学生がスムーズに留学生活を送るためには、留学生別科・日本語学校・留学生（日本語教育）センターなどの予備教育段階でAJ前半教育までを行い、入学後の学部の日本語教育で、平行して行われる大学の他の授業にスムーズに入っていける事を目的とするAJ後半教育を行うよう連携を図ることが現在の日本の大学への留学において

は現実的だと思われる」との提案を行っている。

フェリス女学院大学の留学生日本語教育においても、「留学生たちが必要としている能力」として、以下の項目が挙げられている（河先 2007）。これは堀井のいう AJ 後半教育の部分に相当すると考えられる。

- ① 大学内での事務処理能力：履修登録、掲示板の利用、図書館など大学内の諸設備の利用、その他
- ② 授業履修のための能力：教養的知識、講義の理解（ノートをとるなど）、情報の収集（文献検索など）、情報の理解、得た情報・知識を整理して他者に伝える、ディスカッション、レポートを書く、その他
- ③ 人間関係構築能力：コミュニケーション能力
- ④ 異文化適応能力
- ⑤ 就職活動のための能力：企業の採用情報の収集、履歴書・エントリーシートを書く、面接を受ける、その他

図 1 私費留学生のための日本語コースのスケジュール

時間数 (1週間)	1 年次夏学期				1 年次冬学期			
	4月	5月	6月	7月	10月	11月	12月	1月
1	A 文法復習		B-1 新聞・ニュース、統計資料の理解		B-2 エッセイ、論文読解入門		B-3 論文読解とディスカッション	
1			B 情報の収集		理解・整理・発信			
1			C 論理的な文章を書く					
1								

上記の能力の獲得をコース全体の目標とし、考案された具体的な教育内容が図 1 である。これは 1 年次のみのものであるが、2 年次以降は内容のあるやや抽象度の高い文章の読解やレポート作成などを念頭に置いた作文指導に加え、必要や要望に応じて就職のための日本語指導も行われる。

フェリス女学院大学では 1 年次に 8 単位の取得が求められるため、前後期とも 4（授業）時間の必修とし、大きく分けて、A 文法復習、B 情報の収集・理解・整理・

発信、C 論理的な文章を書くためのスキルや知識の獲得を目指した授業が行われている。また、2 年次以降は留学生各自の履修計画に応じて残った必修 4 単位分の授業を選択し履修できるようになっている。

私費留学生対象の日本語コースのスケジュールは基本的に上述のような流れで行われているが、2010 年度からは前述のように日本語科目の必修単位数が現行の 12 単位から 10 単位に減ることになった。そのため、2011 年度に向けてカリキュラムの見直しが必要になってきている。

また、公式なものではないが、2006 年度に試験的に導入して以来、2007 年度から OPI のテスター資格を持つ筆者が留学生の日本語能力評価に OPI を取り入れる試みを開始し、現在に至っている。

3. OPI による日本語能力評価

3.1 OPI とは何か

OPI (Oral Proficiency Interview) とは ACTFL (The American Council on the Teaching of Foreign Languages: アメリカ外国語教育教会) で開発された、「話す能力」のレベルを判定するための評価基準およびその基準を土台とした面接テストである。現在、約 40 の対象言語があり、米国の政府機関などで大いに利用されている。OPI のワークショップが日本で初めて行われたときの 3 人のトレーナー (OPI テスター養成資格所持者) のうちの 1 人である牧野の定義に従えば、「OPI とは、外国語学習者の会話のタスク達成能力を、一般的な能力基準を参照しながら対面のインタビュー方式で判定するテストである。(牧野 2001)」ということになる。

OPI の判定の方法は 15 分から 30 分程度の、導入部 (warm-up) ・ レベルチェック (Level checks) ・ 突き上げ (probes) ・ 終結部 (wind-down) の 4 段階からなるインタビューを行って発話サンプルの特徴を初級 (上・中・下)、中級 (上・中・下)、上級 (上・中・下)、超級という 10 の段階の判定尺度に照らし合わせて決める。インタビューの中にはロールプレイが含まれ、また、インタビューは録音され、終了後の最終判断の確認のために使われる。

表 2 OPI 判定の基準 (概略)

	機能・タスク	場面／話題	テキストの型
超級	裏付けのある意見が述べられる。仮説が立てられる。言語的に不慣れな状況に対応できる。	フォーマル／インフォーマルな状況で、抽象的な話題、専門的な話題を幅広くこなせる。	複段落
上級： 上・中・ 下	詳しい説明・叙述ができる。予期していなかった複雑な状況に対応できる。	インフォーマルな状況で具体的な話題がこなせる。フォーマルな状況で話せることもある。	段落
中級： 上・中・ 下	意味のある陳述・質問内容を、模倣ではなくて創造できる。サバイバルのタスクを遂行できるが、会話の主導権を取ることはできない。	日常的な場面で身近な日常的话题が話せる。	文
初級： 上・中・ 下	機能的な能力がない。暗記した語句を使って、最低の伝達などの極めて限られた内容が話せる。	非常に身近な場面において挨拶を行う。	語、句

出典：牧野ほか (2001)、一部筆者改変。

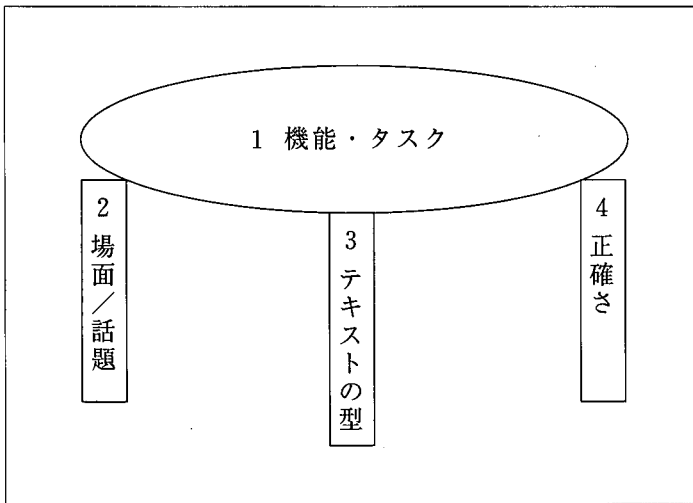
3.2 なぜ OPI を用いるのか

ACTFL-OPI のマニュアル (1999) によると、OPI では「会話能力を多角度から総合的に見ること」、「現実の状況下で言語をいかに効果的にそして適切に使用できるか」を目標としているので「可能な限り自然な会話」に近い形で言語を使うことを条件としている。判定のためにはロールプレイも取り入れて総合的タスクを行い、どのくらい「語れる」か、フォーマル・インタビューがどのくらい使いこなせるか、正確さ、テキスト (単語、文、段落、複段落のどこまで使えるか) の形をチェックする。「突き上げ」(たとえば、被験者の意見に対する反論) によって言語的挫折^(注5)を体験した被験者は目標言語 (たとえば日本語) で自分ができることとできないことをはっきりと自覚することになる。これらの点から、OPI を使うことによって被験者は自然な会話に参加し続けながら自らの弱点を認識でき、教師からのチェックを受ける機会が得られるわけである。^(注6)

また、「OPI の基底にある考え方では、… (中略) …言語を伝達の道具として捉えています。ですから、基準は各レベルで言語をどの程度道具として使えるか

というタスク達成の能力基準となっています (牧野 2001)」と述べられているように、OPI では「機能・タスク (= 言語を使って何が出来るかということ)」の達成度を中心に言語能力 (proficiency) というものを捉え、それを支えるための 3 つの柱として、「場面／話題」、「テキストの型」、「正確さ」を置いている。図 2 にあるように 3 つの柱が相互に関連しあいながら言語能力を形成していると考えているのである。言語能力に関してのこのような捉え方は、前述した「内容重視の日本語教育」と重なる部分が多いと考えられる。

図 2 OPI で判定の基準となる 4 つの要素



加えて、萩原 (2001) の指摘にもあるように、日本の大学で留学生に必要な口頭能力には大きく分けて、学業に関連した場面での口頭能力と日常生活上の口頭能力があるが、自助努力で上達可能な後者と異なり大学での日本語教育で主に求められるのは前者、つまり、自分の専門に関連した話題について話せる能力の養成である。論理的で詳細に、しかも的確にわかりやすく、専門的な話題を説明したり、意見を主張したり、交換したりできるようになるための語学教育が求められるが、OPI を用いることによってその達成度を測ることができ、現段階で欠けている能力をも理解することができると考えられる。もちろん OPI はその名が

示すとおり口頭能力を測るものであるが、たとえば超絶で求められる「正確さ」を「語彙」の面で達成しようとするれば、「漢語系の抽象語彙が駆使できる」ためには当然目標言語で書かれた新聞が読みこなせる必要が出てくるなど、話すことと読むことが交差することになる。話すことと聞くことの関連は自明であるため、このように考えてくると OPI によって測られるものは会話に止まらない。読解を含み、超絶段階では接続詞などを用いて論理的整合性のある複段落の文章の構成をめざしているという点で作文能力の一部をも含んでいる可能性がある。このような点も「アカデミック・ジャパニーズ」教育に OPI の視座が貢献し得る可能性を示しているのものであると考えられる。

本稿ではこれらの理由からフェリス女学院大学でこれまでに行われ、また、現在行われている留学生日本語教育について OPI を通して考察を試みることにしたわけである。

4. インタビューから見える特徴

4.1 被験者に共通する特徴および実際の談話例

2006 年度に試験的に導入してからこれまでにフェリス女学院大学の留学生を対象に行ってきた OPI の結果からいくつかの傾向が見えてきている。ただし、2006 年度以前の入学者に関しては全員に対して OPI が行えたわけではないため結果の一般化は困難であるが、被験者に関してはある程度の傾向が出ていると思われる。これから実際の発話サンプルを見ていくことにする。まず、日本語科目の単位取得がすでに終わっている 3, 4 年生を対象にしたものから始めたい。

発話サンプル 1: A さん (中国) 4 年生。T はテスター (以後同様)。韓国ドラマ「パリの恋人」のストーリー

A: えっと、女の人が、一人いるんですけど〈うん〉すごく貧しい家庭で生まれた人で、イギリス、イギリス、あの人は音楽が大好きで、音楽家を目指してイギリスに勉強しに行ったんですけど、留学で行ったんですけど〈うん〉そこですごく貧しい、自分で仕事をして生活しないといけないから、すごくどんそこの世界で〈うん、何の世界?〉どんそこ、どんそこ (笑) 一番

下のしいとの世界, 世界でくらしていて, すごく苦勞して, 外国で苦勞して
ますけど〈うんうん〉まー, そこでイギリスで, お金持ちの, 韓国の二
世 (笑) 〈うんうん〉大企業の二世と出会う (はー) そこでなんか恋の
物語をしていくんですけど〈うんうん〉はい, で, 最初は二人で, けんか
ばかりしたりして〈あんまり, 気が合わない?〉そうですね。敵を, 敵だ
ったんですけど〈うん〉最後に男の人のほうが女の人の, が好きになって,
そこから付き合っていく過程で〈うんうんうん〉女の人は貧しい人からシ
ンデレラになる〈うんうんうん〉感じの……

発話サンプル2 : Bさん(中国) 4年生. 映画「ファインディング・ニモ」のストーリー

B : 男の子です。はい, その子どもの名前がニモで, 小さい時に学校に行つた
りとかして, お父さんはずっと, 子どものことずーっと, かほ, かほう,
かほうごっていうか, 心配してて, なんでも, こう, 一人でやらせなかつ
たですね。でも, ニモはすごいカッポツ, 活発な子どもで, いろんな, な
んか危ないこととか, 挑戦したり, とか, すごい好きな子どもでした。で,
ある日, えとー, そのー, 魚の学校ですね。えと, 先生と一緒に, 見学,
ですね。海の中の生き物とか見学に行った時に, ニモはこう, 迷子になり
ました。〈うーん〉はい, 迷子になって, その後で, 人間の船で, 船があつて,
網に捕られたんですね。えーと, 魚捕る網ですね。

T : 捕られちゃって。

B : 捕られて, で, その後は, ある子どものところに, 売られたんですよ。そい
う, 家で, かわ, 飼われて, うーん, その水槽の中で飼われて, で, ずー
っと, お父さんはそのあと, お父さんはその子どもを捜し続けて, で, や
っといろんな困難を乗り越えて, 子どもと, 子どもを救って, 会えたんで
すね。そういう話ですね。〈はー〉はい。

T : じゃあ, 子どもがなんか家出をして (笑) それを, お父さんが捜し続ける。

B : そうですね。ま, 家族愛の話ですね。

発話サンプル3 : Cさん(韓国) 3年生. 映画「ドリームガールズ」のストーリー

C : 昔, 本当に存在してた女性3人グループの, 歌手がいて, その3人, はい,

歌手なんですけど、女性3人組で、ひと、歌が本当に上手な人は1人で、もう1人、顔がかわいい人がいるんですけど、最初はほかの歌手のコーラス、バックコーラス〈うん〉だけやってて、自分たちが、自分たちが舞台に、自分たちの名前を付けて、舞台に出るテレビ番組に出るような機会があって、デビューすることになるんですけど、〈うんうん〉その会社とかでは、歌はうまいけど、顔は駄目だから、顔がかわいいほうを、歌は良くないけど、メインに立て……。

T : あ、その3人の中でっていうことですか。

C : 中で。

T : その、顔の、顔がいい歌がへたな人を〈笑〉前に出して歌わせよう。

C : 前に出して〈ああ、はいはい〉それで、葛藤が生まれて〈うん〉歌がうまい人はだんだん、自分は才能持っているのに裏に行くようになるから、前に自分、自分が歌えなくなったので、脱退するんですよ。〈うんうん〉その、3人組の中から、ほかの人に替わるんですけど、〈ええ〉最後には映画では、最後には、仲、直りして〈うん〉仲直りするんですけど、〈うんうん〉実際ではそうでもなかったらしいんで。

以上の談話例は上級-上あるいは上級-中と判定された被験者のものである。判定は発話データを2度以上聞き、評価基準に沿って行ったものであるが、ストーリーの描写というタスクを例に取ってみても上級話者の特徴がよく現れている。筆者がOPIのテスター養成のワークショップを受けた際にトレーナーの牧野成一氏に繰り返しいわれたことに、「上級話者の大きな特徴は、ものごとを詳しく描写できることである」というものがある。「中級話者でも、たとえば、一連のスライド写真のように、一つ一つにはそれなりのまとまりがあり、意味を持った描写表現をいくつか続けていうことができるかもしれない。しかし、上級話者の場合は、むしろビデオ映像のように、時間の流れや聞き手への配慮という点から結び付けられた、連続した、一続きのまとまりとして発話することができるのである。(牧野 1999)」というのである。上記の3人の談話例もやや単純化されている面があるものの一定の水準を満たしていると考えられる。

さらに、次の上級話者の例を見ていくと、「裏付けのある意見が述べられる。

仮説が立てられる。言語的に不慣れな状況に対応できる。」とか、「フォーマル／インフォーマルな状況で、抽象的な話題、専門的な話題を幅広くこなせる。」とかいった超絶話者の特徴も随所に見せていることがわかる。

発話サンプル4：Dさん(中国)4年生。中国の少数民族を取り巻く状況および少数民族自治に関する提言

T：自治区を作っても、中で形骸化してしまう。(そうですね。はい) どうしたらいいと思いますか。そういう自治区の、少数民族の側から考えると。

D：側から考えると、ま、今まで自分が育った所だし、ま、ほんとに、なくならないでほしいんですけども、自分もこうやって、もう海外に来てるし、ま、人それぞれ、自分のやりたいことがあるし、みたいなことも、分かってるから、うーん、そうですね、まあ、なんか自分が成功したあとに戻るっていうのが、戻れ、戻るっていう、そういう意思があったら、みんなが、そんな意思持ってたら、多分、また、そうですね、それが消えないんじゃないのかなって思うんですけども、それは多分、単なる希望として。はい。

T：そういう気持ちを持ってもらうためには、どういう手が打てますか。具体的にいうと。

D：そういう手が打てる。うーん、そうですね。やっぱり、まあ、留学で海外とか、まあ、大都市に行って、ま、ある程度経験を積んでる方たちをなんか優先で、なんかそういう雇用制度みたいな感じで、とにかく、なんか、戻ってくれそうな政策を作れば、なんか戻るんじゃないのかなと思うんですけどね。やっぱり政策の問題になっちゃうと思う。

発話サンプル5：Eさん(中国)4年生。原爆投下に対する久間大臣の発言に関する提言

E：確かに、久間さんのように考えている日本人の人も、いるかもしれませんが、えーと、大臣の立場、としてそういう国を代表する立場にいますので、そういうことを、もうちょっと、フォー、正式にいったほうがいい、と思います。私は。例えば、えーと、そういう原爆とかを明らかに、そういう言葉を明らかにしないで、こう、歴史的に見て、戦争の時に起こった事件とか、

アメリカから受けた被害とかは、あの、その戦争の流れとして、回避できなかったとか、そういうふうに、ゆって、我々のなんか、こう、日本人も悲劇を、受けると思わなかったんだけど、結果的には、こうなってしまったからには、これからどうやっていけばいいとか、そういうふうに、後ろに補助条件として、これからのことを加えることで、なんか前のことを和らげるような〈うん〉そういうふうにいったら、国民はそんなに怒ってないと思いますけど。

また、OPI の特徴として、全体の構成の中にロールプレイが組み込まれていることが挙げられる。繰り返しになるが、OPI は言語の運用能力を実生活で起こり得る状況でどれだけ効果的にかつ適切に言語を使うことができるかという観点から評価するものであり、そのためにロールプレイが必要になる。それによって普通の会話のやりとりの中では自然に引き出せない言語的機能が引き出せ、発話サンプルが完全なものになるからである。以下に、超級と上級-上の話者のロールプレイの例を見ていくことにする。

**発話サンプル6：Fさん(中国)3年生。料理は良いがサービスが悪くて流行らない
レストラン店長への提言**

F：そうですね、やはり、日本で、あの、店長さんもお存じだと思うんですが〈うん〉このレストランは日本人向けのレストランですので〈うん、うん、うん〉これは、そういう人たちのおいしいものを作って、一生懸命頑張って作りましたって〈うん〉いうように思ってるとしても、やはり、それをどのようにおいしく食べてもらえるかっていうような方法を、すごく大事だと思うんですね。〈うん、うん〉ものがおいしいからこそ、お客さんが、お客さまが入られるってわけではなくって、〈うん、うん〉ものもおいしいですし、お客さんに対する態度、受け入れ方っていうのも、とっても大事だと思うんですね。〈うん、うん〉お料理はまあまあでも、すごくサービス、態度がよくって、すごく親近感をもたらしてくれるスタッフさんがいるのであれば〈うん〉そういう人は普通のお料理なんですが、すっごいおいしく食べられるっていうようになると思うんですね。

発話サンプル7：Gさん(韓国)4年生。アパートの大家さんとの交渉のロールプレイ

G：えっと、ちょっとお聞きしたいことがありまして。

T：なんですか。

G：あの、あの、家賃の支払い、電気支払いと掃除代なんですけれども〈うーん〉えっと、なんか、ひと家族あたり、1万円ずつ払わなきゃいけないっていう知らせを、いただきまし、いただいて、これは、ちょっと調整していただければいいなと思ひまして〈うーん〉えっと、来ましたけれども、よろしいですか。

(中略)

G：えー、そうですね、私はこういう、なんか支払いっていうのを1人ずつ、払うっていうのを、フドウヤサンから聞いてなくて〈そうですか〉初めて知らせをもらったときは〈うん〉、結構、びっくりしましたね。〈そうなんですか〉え、もし、調整していただけるもんなら調整していただければいいなと思ひまして、来たんですけれども、やっぱり駄目ですかね？

発話サンプル8：Hさん(中国)3年生。上と同じロールプレイ

H：ああ、ちょっと、家賃のことなんですけれども。

T：家賃？ あー、はい、はい、何でしょう？

H：えっと……〈家賃？〉わたしの聞いている限りでは、あのー、ヒ、ヒト家族あたり、1万円払うことになっていると思うんですけれども、〈うん、そうですね〉あの、わたし、い、今、一人暮らしなんですよ。〈ふん、ふん〉で、あの、学生だし、〈うん、うん〉あのー、バイトもそんなに入っていないんですけれども、ちょっと減らせるのではないのか、減らしていただきたいなと思ってるんですよ。〈うーん〉一応、1人なんですけれども。

いずれのロールプレイも被験者が目標言語（この場合は日本語）でまだ遭遇したことがないような状況での言語的処理が必要になるものである。超級話者の場合は、そのような条件下においても、複段落の談話を展開して、日常的な話題のみならず専門的な話題についても、常体（いわゆる「タメ口」）と敬体（敬語を含む文体）の両方を使って会話ができるかどうか、さらに超級レベルのパフォー

マンスに必要とされる広範囲にわたる一般的な語彙や微妙な婉曲表現が使えているかを見るわけである。上の2つの例でいえば、敬体の適切な使用や前置き表現を含む婉曲表現の使用状況から見て、Fさんは超級レベルに達しているが、GさんHさんに関しては超級というには不十分であると考えられる。

ちなみに、これまでのOPIの結果からフェリス女学院大学の学生で上級—中以上に達しているケースでGさんHさんのような例がよく見られる。敬体の適切な使用については留学生日本語教育においても指導を行っているが、概念上の理解がよくても機能の部分的コントロールにまでしか至っていないものが多い。ひとつの要因として教員と学生の距離が近いといわれるフェリス女学院大学の校風の影響も考えられるが^(註7)、指導環境や指導法にいつその工夫を加えることなども含め今後に向けた大きな課題であるといえる。

4.2 時系列的な推移

2007年度入学以降の学生については1年次に全員を対象にOPIを行っている。そして、1年次にOPIを行った学生に対しては、その後1年前後の間隔を置いてOPIを行うことにしている。それによって言語運用の向上を見るときにも大学の内外における意識的・無意識的な学習により発話の何ができるようになったのかを具体的に確認することができるからである。以下に新入生の実際の発話サンプルを2度目に行ったものと比較しながら見ていくことにする。

発話サンプル9：Iさん(韓国)。映画「のだめカンタービレ」のストーリー説明

I：音楽、音楽をしている人なんですけど、主人公がー、男性の主人公は指揮をしていますので、何とか、子どものときで、飛行機で受けた衝撃でー、事故があって、何とか、飛行機に乗ることが怖くなってー、〈その男の主人公ね、うん〉指揮って、指揮の勉強をするためにはー、飛行機を乗らなきゃならないんですけどー、留学のためにー〈うん、うん〉、でも、そういうこと全然できないことー、でも、女性の主人公はちょっと明るいんですけどー、いろいろな間違いがー、…まず、じゃ、女性の主人公がその男性の主人公のために、いろいろ、あつ、あ、何と話したらいいのかな、単語がよく考えなくて…(沈黙)

T : 何か、その 2 人がどうやって知り合うとか、ちょっと、全然わからないんですけど、男性が指揮者で飛行機が怖いと…



発話サンプル 10 : I さんの 2 度目の OPI。韓国に辛い食文化が入ってきた経緯について

I : 唐辛子—いつから入ったのかな？なんか、キムチの場合にも最初は辛くなかったと聞きました。最初は唐辛子が入らなかったキムチだと、そして、今もそのキムチ存在しているし、それもすごくおいし（い）なんですけど、たぶん朝鮮かその前か、今よく覚えてないですけど、〈ふうん〉外国からそれが入ってきて、その後からキムチ入れるのが始まって、ほかの料理にも少しつつ入ったということが—

T : キムチが最初で—

I : キムチがいちおうすごく体にもいいし、そうですね—、そのとき昔にはあまり食べ物もあまり少なかったので、キムチだけでも、おかずはキムチだけで十分だった〈ああ〉そういう時期がありました。〈ふうん〉

発話サンプル 11 : J さん（中国）。チャイナドレスについての説明

J : チャイナドレスはすごく、あれ、東洋人のこっ小柄や、体が小さくてそれ、表すの服ですよ。〈うん、表す服で〉そう、何かちょっとセクシーなんですけど、〈うん、ちょっとセクシー〉んで、シューズがないの、これ何という

*本当は「袖がない」といいたかったそう。（中略）

T : どんな歴史がある？チャイナドレスには。

J : チャイナドレスはせいしょ、〈せいしょ？〉せいしょから、そう、今の日本の着物はとうしょう時代。

T : せいしょ、っていうのはキリスト教の聖書じゃなくて？何ですか？

J : せい時代〈せい？清（しん）？〉しんか…



発話サンプル 12 : J さんの 2 度目の OPI。最近読んだ本の中から中国の国旗の由来について

J : 中国の国旗は—、まず赤い、色赤くて—、あの一、左側の上の奥ほうには、

あの一、真ん中ひとつ大きい星で、あの一、あっ、あの一何だっけ、となり4つ小さいな、小さな星に囲まれて、真ん中にひとつ大きい星があつて〈うん〉、その5つの星にそれぞれの意味があるんですね。

で、まずその赤い地色、じいろが赤くて、で、その意味は共産主義で〈赤は共産主義〉共産主義の意味があつて、真ん中の大きな星は共産党と世界の人民群衆という意味があつて、それはなぜかというよくわかんないですね。

T：星で表してるってこと？

J：で、そのあと、小さな4つの星はそれぞれ農民階級、労働者階級、で昨日授業中で学んで、プチブル、資本階級で、社会的、社会主義のためになんか一貢献がある資本者でプチブル階級たち〈ふん、ふん〉と知識人たちという4つが意味があつて、その星はなぜ黄色かということうめいを表す意味です。

上級で要求される「ものごとを詳しく描写する」点に問題が見られたため、いずれも1年次には中級と判定された学生である。しかし、2年次に行われたOPIでは十分であるとはいえないものの言語的挫折を見せることなく、何とか描写ができるようになってきていることがうかがえる。上記の発話サンプルだけでは読み取れない部分もあるが、発話サンプル全体からの判定では両名ともどのようにか上級（-下）レベルに該当することが確認できた。

紙面の関係もありすべてを示すことはできないが、他の学生の場合も概ね同様の経過で推移し、ゼミに所属する3、4年生の段階では前出の例のようにかなりのパフォーマンスを示すようになると考えられる。

5. まとめと今後の課題

2006年以降のOPIによる留学生の日本語能力（proficiency）評価の試みから、OPIを行った範囲に限定してのものではあるが、ある程度の傾向が見えてきたので以下に示すことにする。

- ① 入学時の判定は概ね中級－上もしくは上級－下になる者が多く、一部に中級－中や上級－中の者が見られる。
- ② 留学生日本語の履修を概ね終えた3年生以降の場合、ほとんどが上級に達し、フェリス女学院大学の留学生日本語で2単位振り替え制度^(注8)を適用されるような成績優秀者の場合は最低でも上級－中に達している。
- ③ 上級－上に達しながら超級に至ることができなかった学生の大多数に待遇表現^(注9)の問題、特に、敬語使用の問題が見られた。

以上から見て、OPIの判定結果および発話サンプルから得られた知見であるという但し書き付きではあるが、フェリス女学院大学の「内容重視の日本語教育」や「アカデミック・ジャパニーズ」をベースにした留学生日本語教育がその他学内外の言語使用環境などと連動することによりその目指す意味において一定の成果を収めていることがわかった。

しかしながら、フェリス女学院大学での留学生日本語教育はまだ歴史も浅く、改善すべき課題も多い。OPIとの関連でいえば、大学入学以前の段階で少なくとも中級－上のレベルに達するようにAJ前半教育の定着を図ってもらい、入学後の通常2年間のAJ後半教育をより効果的に行うことによって、できればOPIで上級－上ないしは悪くても上級－中のレベルに到達できるようにしたい。そのようにして、3年次からの専門・卒論ゼミもしくは専門演習という環境へのソフトランディングを可能にし、また、それに加えてインターンシップなどを経験しながら卒業の段階ではOPI超級に達することができるようにしていきたいと考えている。

また、今後は入学時にOPI調査を全員に対して行い、その後も時系列で行いたいと考えている。それによってフェリス女学院大学の留学生全体の日本語能力（proficiency）の傾向と推移を把握することが可能になり、今後のカリキュラム開発や授業内容の改善につなげられると考えるからである。さらに、談話データをもとに言語コーパス（仮称「フェリスコーパス」）を作成することによって第2言語習得研究などの日本語教育研究に一定の貢献ができると考える。あわせて今後の課題としたい。

最後に、留学生の日本語能力（proficiency）の傾向と推移を留学生日本語教育

の取り組みと関連付けて考察することを目的として本稿を書き進めてきたが、留学生日本語科目の授業における具体的な教育実践との関係については言及できなかった。実践をさらに進めながらいずれ稿を改めることとしたい。

注

- 注1 言語研究用に計画的に集められた電子化言語データの集積。データの電子化は必須条件ではないが、現実的にはコンピュータで取り扱える（機械可読）ことが前提となっている。
- 注2 ここでは「到達度」という訳語を使用する。対象の外国語に関する熟達の程度のことを指す。
- 注3 この中には2, 3年次編入生、大学院生も含まれる。また、留学生の所属学部は3学部中、文学部と国際交流学部が大半であり、音楽学部はごくまれ（歴代で1名）である。
- 注4 2009年度にはフィンランド人留学生が1名入学しているが、例外的なケースであると見られる。
- 注5 言語的挫折（linguistic breakdown）は、ある特定のレベルにおいて、そのレベルに適切な意味のある発話が被験者から産出されなくなっていることを示す発話サンプル中の現象である。被験者の限界を超えたことは、「発話の質の低下」「発話の行き詰まり」「欠落」「言い換え」「回避」「流暢さの喪失」「非言語的な指標」などのようないくつかの形で表れる（牧野 1999）。
- 注6 OPI については、1対1の対面の調査でありかつ15～30分という時間を必要とすることから、手間がかかること、複数での会話時の状況が測れないことなどの欠点が指摘されている。また、超級以外のOPIには言語的挫折（注6参照）が伴うことから、体面重視文化における使用が難しい点を格別の弱点だとする意見（ジョセフ 1998）もある。しかし、筆者の観察と被験者への聞き取りから、到達度を高めるというOPIのタテ軸思考のアプローチが被験者の目標設定を容易にし、むしろ言語的挫折の克服に結びついている例も多く確認されている。
- 注7 牧野成一氏によると氏の勤務先であるプリンストン大学での授業では敬体の指導がかなり徹底して行われており、効果を上げている反面、常体の使用に弱点が見られるとのことであった。フェリス女学院大学の場合はむしろ「タメ口」は完璧に使いこなす例が多く見られた。
- 注8 留学生の日本語能力が非常に高いと認められる場合、留学生日本語必修12単位中2単位を他の科目で読み替える制度。
- 注9 待遇表現は話し手の敬意や丁寧な態度などを表現する敬語とその対極にある卑語との大きく2つに分けられる。日本語教育では卑語は通常学習対象とされないのが敬語の方が重要になるが、相手との親しさ、仲間意識などを表す表現の学習は大事である。

参考・引用文献

- 伊藤夏美（2004）「2002年度・2003年度 基礎日本語カリキュラム報告」『フェリス女学院大学日本語教育学論究』創刊号、35-46頁。
- 岡崎眸（2002）「内容重視の日本語教育」『ことばと文化を結ぶ日本語教育』細川英雄編、

凡人社、49-66 頁。

- 河先俊子 (2007) 「フェリス女学院大学の日本語教育―カリキュラム報告―」『フェリス女学院大学日本語教育学論究』第 3 号、65-75 頁。
- ジョセフ・トメイ (1998) 「北海道大学における英会話上達度試験」『高等教育ジャーナル (北大)』第 3 号、167-172 頁。
- 日本語教育学会 (2005) 『新版日本語教育事典』大修館書店
- 堀井恵子 (1998) 「ACTFL-OPI の手法を使った会話力向上の練習の可能性」『武蔵野女子大学紀要』33 号、9-16 頁。
- 堀井恵子 (2005) 「日本留学試験の「日本語」シラバスを再考する―「アカデミック・ジャパニーズ」という概念を教育に埋め込む試みから」『日本留学試験とアカデミック・ジャパニーズ(2)』文部科学省科学研究費補助金研究成果報告書 (平成 14-16 年度基盤研究 A、課題番号 14208022、研究代表者 門倉正美)
- 牧野成一監修 (1999) 『ACTFL-OPI 試験官養成用マニュアル』ALC Press Inc.
- 牧野成一監修 (2001) 『ACTFL-OPI 入門』アルク